

日本物理学会第63回年次大会2008年3月24日11:30-12:30

領域2(プラズマ物理分野)運営会議

代表 石原 修 副代表 田中和夫

(任期H19年10月～H20年9月)

議題

- 1) 領域2役員紹介
- 2) 日本物理学会第63回年次大会までの主な活動
- 3) 日本物理学会第63回年次大会
- 4) 日本学会会議
- 5) 最近の招待講演一覧
- 6) チュートリアル一覧
- 7) 若手奨励賞
- 8) 秋季大会
- 9) シンポジウム、招待講演・企画講演申請に際しての注意事項
- 10) ウェブ：物理学会領域2の皆様へ：
- 11) 領域委員会
- 12) 核融合科学研究所共同研究
- 13) 学会連携

1) 領域2役員 (1)

領域2役員

	役職名	名前	所属	本部向け任期	役員任期	担当
1	領域代表	石原修	横浜国立大学	2007/10-2008/9	2009/9	
2	領域副代表	田中和夫	大阪大学	2007/10-2008/9	2010/9	
3	領域前代表	小野靖	東京大学	2006/10-2007/9	2008/9	
4	役員 (世話人)	赤塚洋	東京工大	2006/5-2007/4	2008/9	シンポ
5	役員 (世話人)	澤田圭司	信州大	2006/5-2007/4	2008/9	広報
6	役員 (世話人)	草野完也	海洋研究開発機構	2007/5-2008/4	2009/9	シンポ
7	役員 (世話人)	比村治彦	京都工芸繊維大学	2007/5-2008/4	2009/9	広報
8	役員 (世話人)	渡辺智彦	核融合科学研究所	2007/5-2008/4	2009/9	大会
9	役員 (世話人)	石井康友	日本原子力機構	2008/5-2009/4	2010/9	大会
10	役員 (世話人)	吉村信次	核融合科学研究所	2008/5-2009/4	2010/9	広報
11	役員 (世話人)	樋田美栄子	名古屋大学	2008/5-2009/4-	2010/9	大会
12	役員 (世話人)	欠員		2008/5-2009/4		

1) 領域2役員 (2)

	役職名	
1	領域代表	
2	領域副代表	
3	領域前代表	
4	役員 (世話人)	
5	役員 (世話人)	
6	役員 (世話人)	
7	役員 (世話人)	
8	役員 (世話人)	
9	役員 (世話人)	
10	役員 (世話人)	
11	役員 (世話人)	
12	役員 (世話人)	

2) 日本物理学会第63回年次大会までの主な活動

第1回領域2役員会議 (名古屋駅前安保ホール会議室)	2007年10月20日
平成19年度物理学会若手奨励賞選考委員会 (NIFS)	2007年11月3日
物性領域プログラム小委員会 (日本物理学会会議室)	2007年11月21日
領域委員会 (日本物理学会会議室)	2007年11月21日
第2回領域2役員会議 (NIFS)	2007年12月8日
物理学会プログラム編集会議	2007年12月13日
第3回領域2役員会議 (近畿大)	2008年3月23日
日本物理学会第63回年次大会	3月24日 運営会議
日 懇親会	3月25日
和)	(担当 樋田、吉村、坂)

3) 日本物理学会第63回年次大会 (1)

1. 第63回年次大会領域2 162件 (物理学会全体で3605件)

プラズマ基礎 53

プラズマ科学 22

磁場核融合 67

慣性核融合 15

プラズマ宇宙物理 5

2. 招待講演 ①平野洋一(産総研) ②森崎友宏 (核融合研)

3. 企画講演 チュートリアル①児玉了祐 (阪大) ②菊池満 (原研)

4. シンポジウム:

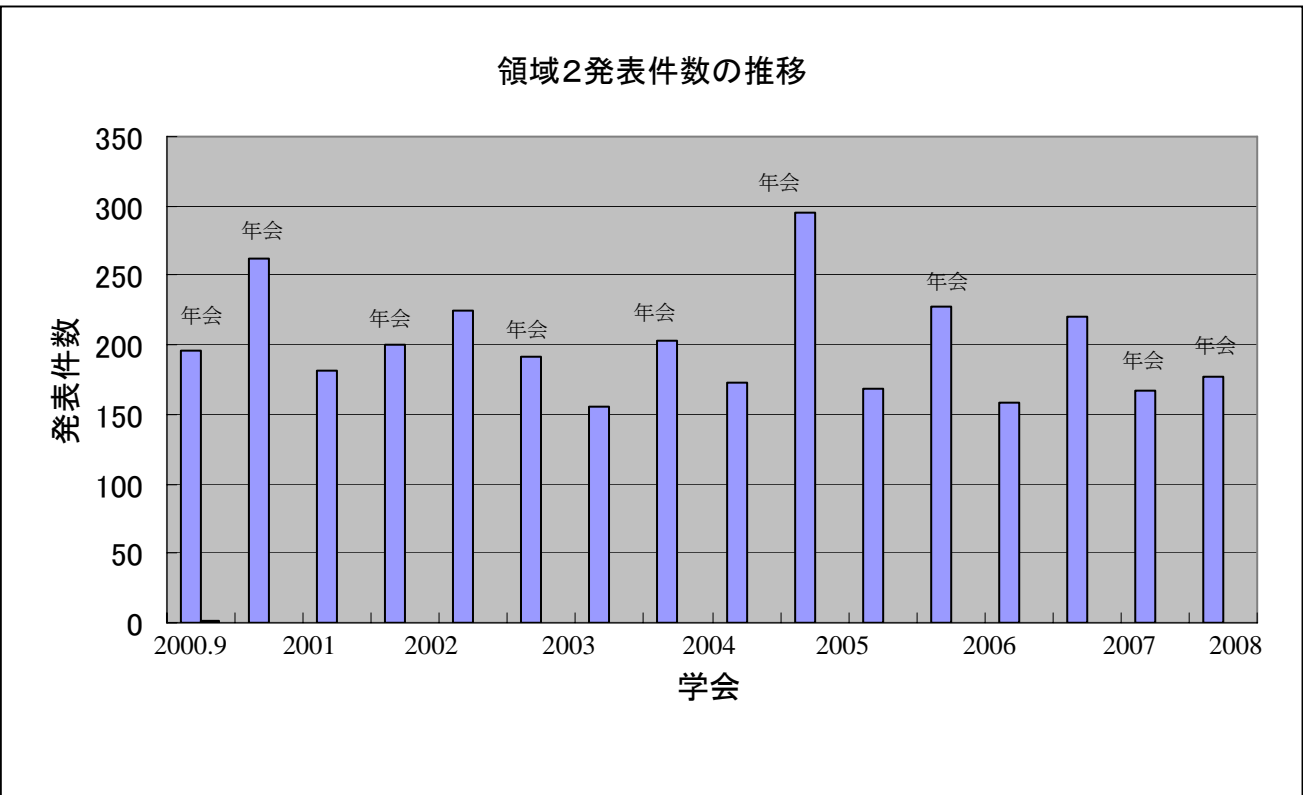
①エネルギーと保存則を考え直す—非エルミート作用素理論の進展と展望
(領域2 + 領域11)

②原子・分子過程が関与したプラズマの相乗的複雑性と構造形成

5. 若手奨励賞受賞記念講演 相羽信行

6. 合同セッション: 領域2 + ビーム物理領域

3) 日本物理学会第63回年次大会 (2)



4) 日本学術会議

日本学術会議

学術会議と物理学会の連携に関する インフォーマルミーティング

日 時: 3月24日(月) 午後5時30分—午後7時

場 所: QB会場

司会: 伊藤早苗 (学術会議物理学委員会・副委員長、九州大学)

1) 日本学術会議よりの報告

物理学委員会報告 永宮正治(物理学委員長、J-PARCセンター)
物性・一般物理分科会報告 家 泰弘(物一分科会幹事、東大物性研)
素粒子・原子核分科会報告 相原博昭(素核分科会幹事、東大理)
天文・宇宙分科会報告 杉山 直(天宇分科会幹事、名大理)

2) 日本物理学会よりの報告

物理学会の報告 五神 真(東大工)

3) 両者を亘る活動

人材育成(資料のみ) 覧具博義(農工大)

4) 自由討論

5) 最近の招待講演一覧

最近の招待講演一覧

2004年 年会 (59回) 九大	無衝突衝撃波における比熱的粒子加熱	寺沢敏夫 (東大)
	Study of TeV gamma-ray emission from the nearby starburst galaxy NGC253	伊藤千枝 (茨城県立医大)
	Study of non-thermal X-ray emission produced by sub-relativistic and ultra-relativistic particles in supernova remnants	内山泰信 (エール大)
2004年 秋 青森	天体プラズマにおける磁気流体不安定	佐野孝好 (阪大)
	JT-60Uの高ベータプラズマにおけるMHD不安定性の抑制と定常化研究	諫山明彦 (原研)
2005年 年会 (60) 東京理科大	レーザーと加速器	田島俊樹 (原研) 新領域
	1 cmキャピラリーによる100 MeV電子加速	北川米喜 (阪大) 新領域
	超高強度レーザープラズマからのモノエネルギー電子加速	小山和義 (産総研) 新領域

5) 最近の招待講演一覧

最近の招待講演一覧(続)

2005年秋 同志社	高ベータプラズマの揺らぎの発展と緩和過程に関する物理研究	榊原悟 (核融合研)
	JT-60Uにおける周辺部輸送障壁ダイナミクスの研究	大山直幸 (原研)
2006年年会 (61回) 愛媛	大型ヘリカル装置LHDにおける周辺プラズマ物理の研究	増崎貴 (核融合研)
2007年春 鹿児島	The US National Ignition Facility - Its goals and scientific impact	Brian MacGowan (リバモア研)
2007年年会 (62回) 北大	プラズマ乱流	伊藤早苗 (九大)
	高強度レーザーによるプラズマ粒子加速と高強度科学の展開	田島俊樹 (原研)
2008年年会 (63回) 大阪	Magnetic self-organization in toroidal plasmas-逆磁場ピンチダイナモ効果をめぐる実験と理論の相互触発	平野洋一 (産総研)
	無電流磁場閉じ込めプラズマの超高密度をもたらす拡散障壁	森崎友宏 (核融合研)

6) チュートリアル一覧

チュートリアル一覧

2007年春	磁場閉じ込めプラズマ中の電場と温度分布の構造形成	居田克己 (核融合研)
	非中性プラズマで見る非平衡多粒子系の緩和と輸送の基礎課程	際本泰士 (京大)
2007年年会 (62回)	プラズマ基盤のナノカーボンナノスペース制御	畠山力三 (東北)
	宇宙プラズマが決める地球環境の境界条件	寺澤敏夫 (東工大)
2008年年会 (63回)	トカマクプラズマ物理ープラズマフローとその基礎	菊池満 (原研)
	光を使った高エネルギー密度科学の展開	児玉了祐 (阪大)

7) 若手奨励賞

若手奨励賞

2007年9月 第62回年会	宮戸直亮 金子俊朗	委員長 田中雅慶 (九大) 委員 石原修 (横国大) 佐伯紘一 (静大) 草野完也 (地球シミュレータ) 中島徳嘉 (NIFS)
2008年3月 第63回年会	相羽信行	委員長 岸本泰明 (京大) 委員 田中和夫 (阪大) 大澤孝治 (名大) 福山淳 (京大) 米田仁紀 (電通大)

8) 秋季大会

秋季大会

- 岩手大学
- 2008年9月20日(土)～23日(火)

2008年秋季大会関係の今後のスケジュール（予定）

1	招待講演、企画講演、シンポジウム企画募集掲載	会誌3月号
2	講演募集要項掲載	会誌4月号
3	招待講演、企画講演、シンポジウム企画申込期間（web受付）	4月9日（水）～4月30日（水）
4	インフォーマルミーティング申込期間（web予定）	4月9日（水）～5月23日（金）
5	物性領域プログラム小委員会／領域委員会	5月23日（金）
6	一般講演 申込期間	郵送：5月9日（金）～5月23日（金） Web：5月9日（金）～6月1日（日）
7	プログラム編集会議（世話人または世話人代理） 場所：東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館内会議室）	6月13日（金）
8	プログラム初校校正	7月初旬
9	プログラム暫定版Web公開	7月下旬
10.	講演概要集原稿締切（郵送、pdf同時）	7月18日（金）
11.	座長依頼発送	7月下旬
12.	プログラム掲載	会誌8月増刊号
13	2008年秋季大会 岩手大学上田キャンパス	2008年9月20日（土）～23日（火）

岩手大学2008年9月20日（土）～23日（火）

9) シンポジウム、招待講演・企画講演申請に際しての注意事項(1)

①講演登壇1回の原則

シンポジウム、招待講演・企画講演を通じて講演登壇は1回とする。
提案時においても講演者の重複は認めないことがある。ただし、シンポジウムでの10分以内の「趣旨説明」や「まとめ」等の登壇は、ここでいう講演とはみなさない。

②提案者と講演者

シンポジウム、招待講演・企画講演を通じて、提案者と講演者(推薦理由に掲げる論文の共著者を含む)が同一の提案書は審査の対象としないことがある。

③提案者の役割「趣旨説明」または「まとめ」

シンポジウム提案者は、10分以内の「趣旨説明」または「まとめ」の登壇者として加わることができる。また、当該企画が滞りなく開催されるよう座長の一人としての任を果たすとともに、概要集原稿や会期後の報告にも責任を持って協力することとする。

④講演者の所属

シンポジウム講演は、一つの所属に偏らないことを原則とし、一つのシンポジウムで同じ部門(学科・専攻など)から2名以上の講演者を呼ぶことは、特別な理由がなければ認められない。(上の特別な理由として、異なる研究グループに属し、実験と理論など専門が異なる場合で、且つシンポジウム遂行にとって重要な講演者と判断できる場合を含むこととする。)

⑤シンポジウム時間

シンポジウム講演は、休憩時間を含めて原則3.5時間以内とする。

9) シンポジウム、招待講演・企画講演申請に際しての注意事項(1)

⑥登壇者のプログラム表記

共著者が含まれる講演については、シンポジウム、招待講演・企画講演ともにプログラム表記は登壇者1名に限るとする。

⑦講演概要集の原稿

講演概要集の原稿はシンポジウムの「趣旨説明」や「まとめ」も含めて各登壇者2枚までとする。

⑧見込まれる聴講者数

見込まれる聴講者数、希望日程等の事項を必ず記入すること。

⑨登壇者の会員番号

登壇者の会員番号(非会員の場合はその旨を記入)と電子メールアドレスを必ず記入すること、未記入の場合は採択されないことがある。

⑩シンポジウム内容

前回の学会とあまり内容が変わらない招待講演・企画講演並びにシンポジウムは採択されないことがある。

⑪総合討論/パネル討論

総合討論やパネル討論等を設ける場合は、提案者は、パネリストとしてではなく、座長もしくは司会者という形でのみ加わることができる。

10) ウェブ:物理学会領域2の皆様へ(1):

物理学会領域2の皆様へ:

<http://div.jps.or.jp/r2/message.html>

- 10月より領域2代表になりました横浜国立大学の石原修です。今後われわれの目指す領域2の方向を小野靖前代表、田中和夫副代表、新役員そして皆様と一緒に考えていければと思います。

【はじめに】

日本物理学会は国内外の物理学研究者・教育者・技術者約 **20,000名**を擁する組織で、会員の40%が大学、26%が民間会社、10%が官公庁に所属しており、大学院生を含む学生は13%ということです。

発足は1877年で、「東京数学会社」として出発、その後1884年に「東京数学物理学会」、1918年に「日本数学物理学会」と改称し、1945年に「日本数学会」と「日本物理学会」に2分され、**1946年に第1回年会**が東京帝国大学で開かれています。そのとき、発表数は222だったということです。そのときに分科会が応用数学、物性論、光学、放電物理、磁気、素粒子、力学と決められています。2007年、先日行われた札幌での年会は第62回です。途切れることなく続いてきた先輩たちの苦勞と情熱により此処までやってくることが出来ました。

10) ウェブ: 物理学会領域2の皆様へ(2):

【領域2への経緯】

1877年「東京数学会社」

1884年「東京数学物理学会」改組

1918年「日本数学物理学会」改称

1945年「日本数学会」と「日本物理学会」に分離

1962 名古屋大学プラズマ研究所が開所され、物理学会の中でプラズマグループはプラズマ物理・核融合分科会として活動してきました。

1995 次第に細分化していく分科会の活動の中で、「日本物理学会」としての50周年を機会に、横のつながりを強化することを目指した改革が議論されました。

1999

物性分科会の変更の議論のなかで、1999年秋から物性分科はプラズマ・核融合、原子分子・量子エレクトロニクス、多体系・非平衡系、フロンティア領域、物理教育の各部会と凝縮系8領域(計13領域)に再構築されることになりました。プラズマ物理・核融合は放電分科と統合されて「領域2」として出発することになったのです。

2004 その後、2004年に領域委員会規定が制定され、領域2では4つの柱、「プラズマ基礎、プラズマ科学、核融合プラズマ、プラズマ宇宙物理」を立て、その学問領域を明確にしています。

2005 領域2の活性化をめざして、2005年からは、物理学会、天文学会、地球電磁気・地球惑星圏学会の3学会で、年会の際に「プラズマ宇宙物理」の合同セッションが開催されています。

2008

10) ウェブ: 物理学会領域2の皆様へ(3):

【国際連携】【国内連携】

- 学会の連携を図るということでは、物理学会では、1973年にはオーストラリア物理学会との協力関係を成立させ、1985年以来アメリカ物理学会、韓国物理学会、ヨーロッパ物理学会など世界の物理学会と相互協定を結び、互いの会員が同等の資格で活動に参加できるようにしています。

プラズマ関連の動きとしては1978年に核融合連合講演会が物理学会、応用物理学会等の共催により開かれ、1983年にはプラズマ・核融合学会が発足し、プラズマ・核融合学会と日本原子力学会によって1995年以降、ほぼ2年おきに核融合エネルギー連合講演会が開かれています。多くの学協会で活動しているプラズマの基礎・応用分野の研究者・技術者が一同に会する国内では初めての試みとして**2001年と2005年にはプラズマ科学シンポジウム**がプラズマプロセッシング研究会 (応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会) との合同で開催されています。

10) ウェブ:物理学会領域2の皆様へ(4):

【領域2の新体制と将来】

こうした歴史的な発展を背景として、領域2では、会員の研究成果の発表の場の提供と、会員の研究上の便宜をはかることを目的として、プラズマ物理学の活性化と学術的レベルの向上を目指して、活動をさらに充実したものとしていきたいと思っております。領域2の**過去10回の学会発表件数は160~300で推移し、平均196件**です。メーリングリスト(PlasmaML@nifs.ac.jp)には**625名の登録**があります。もっと発表件数が増えて、学会の中で活発な議論を通して、学術的に、それこそプラズマの特徴であるCOLLECTIVEな力を発揮できるような場を作りたいと思っております。

領域制度になってから、領域2では、矢木雅敏、高部英明、吉田善章、田中雅慶、岸本泰明、小野靖と、領域代表がそれぞれ活性化に向けて努力してこられ、現在に至っています。いま、代表・副代表、前代表を含む12名からなる執行部体制が出来上がり、今後学会におけるプログラムの充実と、外に見える形での学会の活性化、特に**日本学術会議との連携**や、関連他学会との連携等積極的に取り組んでまいりたいと思っております。

札幌での運営会議(2007. 9. 22)で認められた役員構成は以下のようになっております。役員を代表して、領域2の運営についてはよろしく願い申し上げます。

領域2では、皆様からの率直なご意見を歓迎いたします。メール、電話、学会などでお会いした際直接など、手段を問わずご連絡お待ちしております。

11) 領域委員会

領域委員会

2007. 11. 21 日本物理学会会議室

1. 素粒子論
2. 素粒子実験
3. 理論核物理
4. 実験核物理
5. 宇宙線・宇宙物理
6. ビーム物理領域

7. 領域1(原子・分子、量子エレクトロニクス、放射線物理分野)
8. 領域2(プラズマ基礎・プラズマ科学・核融合プラズマ・プラズマ宇宙物理)
9. 領域3(磁性、磁気共鳴分野)
10. 領域4(半導体、メソスコピック系・局在分野)
11. 領域5(光物性分野)
12. 領域6(金属、超低温、超伝導・密度波分野)
13. 領域7(分子性固体・有機導体分野)
14. 領域8(強相関係分野—高温超伝導、強相関f電子系など)
15. 領域9(表面・界面、結晶成長分野)
16. 領域10(誘電体、格子欠陥、X線・粒子線、フォノン物性分野)
17. 領域11(統計力学、物性基礎論、応用数学、力学、流体物理分野)
18. 領域12(ソフトマター物理、化学物理、生物物理分野)
19. 領域13(物理教育、物理学史、環境物理分野)

11) 領域委員会

領域委員会の任務

- 本委員会では年次大会・秋季(春季)大会の内容およびこれらの大会に関する諸問題を審議

- 本委員会の下に

「素核宇ビーム領域プログラム小委員会」

「物性領域プログラム小委員会」

を設置する。

各プログラム小委員会は当該領域のシンポジウムや招待講演の企画・調整等を目的とし、本委員会はその決定を尊重する。

年会の内容についての議論、

レビューセッション及び活性化等の議論、

12) 核融合科学研究所共同研究

平成20年度核融合科学研究所共同研究申請書

研究代表者氏名 石原修				研究代表者所属機関・部局・職 横浜国立大学・大学院工学研究院・教授		
連絡先	電話	045-339-4183	FAX	045-339-4183	代表者 e-mail	oishihar@ynu.ac.jp
核融合科学研究所 所内世話人			岡村昇一 0572-58-2157 (fax2666)		世話人 e-mail	okamura@nifs.ac.jp
研究課題 (和文)		プラズマ物理に関連する科学研究諸分野の連携				
研究課題 (英文)		Bridge over plasma-related interdisciplinary sciences				
キーワード (和文)		※3ワード程度 プラズマ物理、 科学諸分野連携		キーワード (英文)	※3ワード程度 plasma physics, Interdisciplinary sciences	

13) 学会連携

学会連携

1) 応用物理学会

畠山幹事長。

2) 電気学会

行村委員長

3) プラズマ核融合学会

松田会長

4) 静電気学会

水野会長

5) 放電学会

日高副会長

6) 天文学会

3学会幹事で議論。松元、柴田先生

7) 地球電磁気・地球惑星科学連合

3学会幹事で議論。星野、寺澤先生

2008. 9. 8－9. 12

ICPP2008(福岡)

2009. 2. 2－2. 4

プラズマ科学シンポジウム
(名古屋)

2009. 3

物理学会
(領域2—天文—地球電磁気)

- THE END